

国語 (1)

解答番号

1

5

33

I

次の文章を読み、後の問い(問一～問十二)に答えよ。(50点)

コミュニケーションと売買は、交通網の充実・人的流動性の拡大・オンラインコミュニケーションや電子商取引の拡大とともに、ますます効率化し、ますます自由化された。情報産業の領域では、コミュニケーションと売買はしばしば重なりあっている。Instagramやツイッターのインフルエンサーたちは、インターネットで獲得し、数値化された影響力やバリューを経済的に有意な指標とみなし、みずからの投稿が産出するインプレッション数の分析に余念がない。ウェブサイトやブログも、それらが広告収入に直結ようになって商業化が進んだ。

一九八〇年代の新人類たちはモノやレジャーの消費をとおして自分たちのヒエラルキーを競いあっていたが、令和時代の私たちはそれよりもずっと淡々と、ずっと当たり前のこととして、お互いを価値踏みあい、お互いを商品とみなしあい、コミュニケーションのような売買を、あるいは売買のようなコミュニケーションを行っている。就活や婚活のコミュニケーションはその典型だ。個人それぞれの長所や短所がカタログデータ化され、お互いがお互いを商品のように価値踏みあうことが当たり前になっている。

個人主義、資本主義、社会契約が浸透し、交通網やインターネットが発達し、それらに馴染んだ習慣を身に付けたおかげで、令和時代の私たちは売買とコミュニケーションを、みずからの経済資本や市場価値の許す限り、自由にスワイプすることができ。控えめに言っても、暴力や脅迫や物理的距離による制約が有史以来最も少なくなっているのは間違いない。

そのかわり、私たちはこの売買とコミュニケーションの網の目と、それを成り立たせている社会のシステムからは逃れがたくなっている。売買やコミュニケーションの自由を担保する法律制度と空間設計、それらにふさわしい通念や習慣が徹底されるほど、それらの外側に出ることも、それらの外側を想像することすらも難しくならざるを得ない。

そのどこが問題なのか？ と多くの人は X かもしれない。この売買とコミュニケーションの網の目と、そこで得られる自由から便宜を得ている人、恩義を感じている人、そこで巧みに適応している人らにとって、そもそもこうした仕組みの外側を想定する必要など、どこにもあるまい。ここまでの論点に関して、そのような人々こそ現代社会のマジョリテイである。

だがこうした仕組みから便宜を得ている以上に疎外されている人、お互いを値踏みしあい、お互いを商品とみなしあうコミュニケーションのなかで誰にも自分を売り出せず、自分自身の市場価値は低いと感じている人、この論点に関するマイノリティに相当する人にとって、満足できる状況ではないだろう。

美しい街には、一連のコミュニケーションの布置から逃れられそうな場所は見当たらない。街の空間設計は、私たちを効率性の内側へ、社会契約の内側へとたえず訓練し続ける。商業施設はもちろん、空き地までもが看板や標識に覆われ、資本主義と社会契約のロジックに覆われていて、それらの外部を呼吸できるような——それこそ立小便できるような——隙間がない。ホームレスが座り込みそうな場所にオブジェを設置する空間設計と、福祉による人間の再配置システムが噛み合うことによっても、美しい街の住人が社会契約の外側へ逃走することはハバ**b**まれている。

内面化された通念や習慣からの逃げ場も見つかりにくい。私たちは売買やコンテンツに媒介されるコミュニケーションに慣れきっていて、儀礼的無関心も含めた「お互いに迷惑にならない」ことを良しとする通念や習慣を共有しているから、見知らぬ誰かに唐突にコミュニケーションを試みることは難しい。媒介物を共有していないコミュニケーションは他人を戸惑わせると同時に、私たち自身をもためらわせる。それでもなお、コミュニケーションを強行しようとするれば、迷惑がられたり、最悪、不審な人物として通報されるおそれすらある。

私たちにはコンビニで好きな商品を値札どおりに買う自由も、スポーツバーで知り合った他の客とスポーツ談義をする自由も、婚活サイトで婚活する自由もあるけれども、まったく見知らぬ他人に唐突に話しかける自由、³媒介物抜きのコミュニケーションを試みる自由は持ち合わせていない。

そのうえ、売買とコミュニケーションが重なったことによって、私たちはコミュニケーションまで効率性や生産性といった資本主義のロジックに基づいて考えたがるようになっていく。時間もお金も限られている以上、価値のある情報やコミュニケーションを見極め、効率性を追求しなければならない必要性そのものは理解できるものではある。

そうした通念や習慣に身を委ねれば委ねるほど、コミュニケーションの効率性や生産性は向上する。そのかわり、コミュニケーションの範囲や対象は効率性の高いものに限定されてしまう。コミュニケーションの効率性を重視すればするほど、⁴素性のわからない対象や非効率な対象は視野から外れることになる。リスクの想定される対象など、もつてのほかだ。

これらの結果として、私たちの自由、ひいては私たちがコミュニケーションを介して知り得る情報の限界、ひいては世界観の限界は、他人と共有できる関心や媒介物の多寡によって、それと、提示可能な自分の市場価値の高低によっておおよそ定められることになる。

⁵たとえば他人と共有できる興味関心の幅が乏しく、経済資本にも話術にも恵まれない男性が為しえるコミュニケーションは、その興味関心の狭さ、経済資本や話術の乏しさによって制約されざるを得ない。よほどのことがない限り、そのような制約は狭量な世界観をも育むだろう。もちろん売買は売買以上のコミュニケーションを生まないし、また生んではいけないから、⁶コンビニやスーパーマーケットで世界観が広がるとは期待できない。

⁶いわゆる恵まれている人も、それはそれで他人事ではない。東京のホワイトカラーの家庭に生まれ、一流大学を卒業し、一流企業で働くような男性は、ホワイトカラーの家庭で育つ同窓、ホワイトカラーの職場で働く同僚とコミュニケーションするだろう。国外に出張すれば国外のさまざまな価値観にも出くわし、世界観を広げられるかもしれない。それでも、国外出張で出会う仕事の相手もまたホワイトカラーの家庭を出て大学を卒業している、同質性の高い人々だ。

ア これは経済資本の乏しい人だけの問題ではない。経済資本に恵まれた人、ブルジョワ的なライフスタイルの典型を生きる人の問題でもある。これほど清潔で、同質性の高いニュータウンやタワーマンションに暮らし、**イ** 儀礼的無関心をはじめとする通念や習慣の徹底している街に暮らしながら、**ウ** 自分たちの同類以外と接点を持ち、視野や世界観を広げられるものだろうか？

戦後間もない日本の、地域共同体が存在し、なおかつ諸資本の高低にかかわらず誰もが混在して暮らしていた一時代には、ブルーカラーとホワイトカラー、低学歴者と高学歴者がコミュニケーションする機会が無数にあった。地域共同体に束縛される点ではコミュニケーションや世界観が現代より狭くなりやすかった反面、階級や階層、ライフスタイルや価値観にかかわらず人と人が接点を持ち得る点ではコミュニケーションや世界観が現代より広がる余地があった。

(熊代亨『健康的で清潔で、道徳的な秩序ある社会の不自由さについて』による)

注 インプレッション数——SNSなどの投稿が表示された回数。

新人類——従来なかった考え方や感じ方をする若い世代。一九八〇年代半ばごろに流行語となった。

ブルジョワ——近代資本主義社会で、資本家階級に属する人。金持ち。財産家。

問一 文中の二重傍線部 (a・b) のカタカナを漢字に直したとき、同じ漢字を用いるものを、次のそれぞれの選択肢の中から選べ。

a スイコウ

- 1
- ① 鉄棒で懸スイをする
 - ② 犯行が未スイに終わる
 - ③ 科学技術のスイを集める
 - ④ 産業がスイ退する
 - ⑤ 早寝早起きをスイ奨する

b ハバまれ

- 2
- ① 議長の辞任を慰リユウする
 - ② この部屋はシヤ音がされている
 - ③ 申し出をキヨ絶する
 - ④ 景気のテイ滞が続く
 - ⑤ 病気の進行をソ止する

問二 文中の波線部 (i~iii) の意味として最も適当なものを、次のそれぞれの選択肢の中から選べ。

i 余念がない

- 3
- ① 休むことなく取り組むこと
 - ② 振り回されて余裕をなくすこと
 - ③ とりつかれたように魅了されること
 - ④ 誇りをもって打ち込むこと
 - ⑤ 他のことは考えずに没頭すること

ii 値踏み

- 4
- ① 良し悪しを議論すること
 - ② おおよその価値を評価すること
 - ③ 価値を低く見積もること
 - ④ 価値によって序列をつけること
 - ⑤ 価値の差を計算すること

iii 布置

- 5
- ① あちこちに積み重ねられていること
 - ② ゆるやかに捉えられていること
 - ③ 一面にすきまなく置かれていること
 - ④ 包み込むように全方向から押さえ込まれていること
 - ⑤ それぞれの場所に置き並べられていること

問三 文中の傍線部1へ「コミュニケーションのような売買を、あるいは売買のようなコミュニケーションを行っている」とあるが、このことを示す例として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

6

- ① 見聞きした情報をインスタグラムで伝えるとき、単に発信者になりたいと思うだけではなく、できるだけ多くの人と自分の思いや感動を共有したいと考える。
- ② 友人を選ぶとき、その友人から自分がどのような刺激を得られるか、仲間になることでクラスの中心的な立場になれるか等を基準にして選ぶ。
- ③ 就職活動をするとき、自分の経験を整理したり話し方を工夫して練習をしたりして、就職を希望する企業の面接で自分の意欲や熱意を伝える。
- ④ 婚活サイトで出会った相手と交際を重ね、結婚に至るまでの段階で十分にコミュニケーションをすることで心を通わせて愛を育む。
- ⑤ SNSを介して同じ趣味をもつ人と出会い、関心のある事柄について話すことを楽しんだり、情報交換をしたりする。

問四 文中の傍線部2（それらの外側に出ることも、それらの外側を想像することすらも難しくならざるを得ない）とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

7

① 個人主義、資本主義、社会契約の網の目は、現代を生きる私たちの生活のすみずみまで行きわたり、その支配力の強度は増す一方で、そこから逸脱したコミュニケーションや売買を考える自由は奪われていると感じるようになることは当たり前だから。

② 皆が社会のシステムを受け入れることで私たちはコミュニケーションや売買を自由に行うことができるようになったが、そのような仕組みが社会の共通認識となつて定着していくと、それ以外の行動様式に考えも及ばなくなることは必然だから。

③ 社会の中で暮らす私たちは、日々、ものの売り買いや、情報のやりとりをしているが、その基盤となる社会システムを作ることとはできないため、出来上がったシステムを当たり前のものとして受けとめることに慣れていくから。

④ 皆で協働して社会の仕組みを守ることでは私たちはコミュニケーションや売買の自由という効用を得ているので、この仕組みをさらに発展させることを考えることはあつても、他の仕組みを考えることには思いが及ばないことは普通のことだから。

⑤ 売買やコミュニケーションを有利に行つて利益を得るために、社会の仕組みを可能なかぎり自分のものとしようと努力した結果、社会のルールを意識せずとも自発的に守るようになることは、当然のことだから。

問五 文中の空欄（X）を補うのに最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

8

- ① 眉をひそめる ② 肩を怒らす ③ 足が地につかない ④ 息を呑む^の ⑤ 首を傾げる^か

問六 文中の傍線部3〈媒介物抜きのコミュニケーションを試みる自由は持ち合わせていない〉とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

9

- ① 現代社会では共通の目的や関心に媒介されるといふコミュニケーションのあり方だけが通念や習慣として認められていて、そこから逸脱した行動を取ることに對しては強い抵抗を感じるものだから。
- ② 現代社会においては、お互いに無関心を装うのが望ましいという通念や習慣が共有され広く浸透しているため、その考え方を媒介とせずにコミュニケーションをすることにはどうしてもためらうから。
- ③ SNSなど何らかの通信手段を媒介として人と知り合いコミュニケーションすることは、現代社会の通念や習慣が認める範囲の行為であるが、対面の場で人と知り合うことは、許されるものではないから。
- ④ 現代の社会において、共有の話題がある人とコミュニケーションを試みることは自由だが、媒介物となっている話題に相手が興味や関心を失えば、コミュニケーションそのものが成立しないから。
- ⑤ コミュニケーションをする際、誰かを媒介とすることは、商取引において仲介人を頼む慣例があることが示すように広く認められている慣習であり、そうしないという選択肢はないから。

問七 文中の傍線部4〈もつてのほか〉を四字熟語で言い換える場合、最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

10

- ① 大言壮語
- ② 矛盾撞着
- ③ 前代未聞
- ④ 絶体絶命
- ⑤ 言語道断

問八 文中の傍線部5（他人と共有できる興味関心の幅が乏しく、経済資本にも話術にも恵まれない男性）とあるが、文中の破線部（A～E）のうち、これに最も近いものを指した表現はどれか。次の選択肢の中から選べ。 11

- ① A 令和時代の私たち
- ② B 現代社会のマジョリティ
- ③ C この論点に関するマイノリティに相当する人
- ④ D 美しい街の住人
- ⑤ E 見知らぬ誰か

問九 文中の傍線部6（いわゆる恵まれている人も、それはそれで他人事ではない）とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。 12

- ① 制度設計によって守られている現代社会のコミュニケーションは、戦後間もない頃との比較において自由だと言えるにすぎず、恵まれている人であっても相変わらず不自由さを抱えていることに変わりはないから。
- ② 効率的なコミュニケーションを求める社会の仕組みの中では、恵まれている人であってもコミュニケーションする相手は結局、自分とよく似た人になり、出会える対象に制約があつて世界観が限定されてしまうから。
- ③ 恵まれている人はそれ以外の人と違うように見えてはいても、同じ社会に暮らしている以上、それ以外の人の抱える世界観の固定化という問題の影響は、いずれ彼らにも及んでくるものだから。
- ④ 接触できる人の数や多様性には時間的・空間的な限界があることからすれば、恵まれている人であっても出会える人には限界があり、ひいてはそれが世界観の広がりや限界につながるから。
- ⑤ 恵まれている人は経済資本が豊かで商取引にかかわる頻度が高いため、売買の場面で直接関係のないコミュニケーションが許されないという社会の制約は、世界観を狭める要因として大きく作用するから。

問十 文中の空欄(ア～ウ)を補うのに最も適当なものを、それぞれ次の選択肢の中から選べ。ただし、同じものを繰り返し

選んではならない。ア 13、イ 14、ウ 15

① うかつにも ② しかしながら ③ だから ④ なかでも

⑤ とはいえ ⑥ はたして ⑦ そのうえ ⑧ ところで

問十一 本文の内容に合致するものを二つ、次の選択肢の中から選べ。ただし、解答の順序は問わない。

16 ・ 17

① 見知らぬ他人に話しかけることは媒介物を持たないコミュニケーションで、現代社会では許容されないが、そうであっても私たちは見知らぬ他人に話しかける勇気をもつべきである。

② 売買やコミュニケーションなど、社会のルールに縛られた行動しかできない現代は、人間性の疎外の時代と言えるが、私たちは皆、内面の葛藤を抱えながら、そのルールに従っている。

③ 他者とコミュニケーションをするには、興味関心を共有しているなど何らかの共通点が必要だという排除すべき幻想は、現代を生きる私たちすべてがとらわれているものである。

④ 現代の街では効率が優先され、社会契約に基づいてあらゆる場所が管理されており、私たちはそれを守るように教え込まれ、その状況に慣れさせられている。

⑤ 現代社会を効率よく動かすシステムにあらがう少数派の人たちが、売買やコミュニケーションを円滑に進行させるうえで障壁となっている点は否めない。

⑥ 相手とのコミュニケーションに効率を求めたいという私たちの願望は、コミュニケーションが売買と結びついてその価値が計量できるものになったことによると考えられる。

II

次の文章は、二〇二一年に書かれたものである。これを読み、後の問い（問一～問十二）に答えよ。（50点）

ディスタンスの言葉が頻繁に使われるようになり、あつという間に二年目の夏となった。ニューヨークで六フイート（約一・八メートル）のソーシャルディスタンスの呼びかけがあったのが二〇二〇年三月。セントラルパークは木蓮の蕾がほころび始め、散歩やジョギングを楽しむ人たちが賑わっていた。私はアジア美術の祭典・アジアウィークの準備で二月中旬より渡米していた。到着直後のニュースでは、中国武漢の様子や数少ないアメリカの感染者について伝えられていた。しかしまだ対岸の火事と思われていたのかブロードウェイの舞台やコンサートも通常通り開催されており、レストランやライブハウスにも人が溢れていた。それから三週間後にセントラルパークに仮設病室が並び、三月三十一日には全米で二分に一人がコロナウイルスの感染で死亡する大惨事になるとは、誰が予測していただろうか。

二十数年前から毎年行われているアジアウィークでは、美術館の特別サイエンスやオークション、ディーラーやアーティストの展示会等が開催される。正味十日間の短い期間ではあるが、親交を深めようとヨーロッパ、アジア、アメリカのコレクター達や美術商、作家、美術館や大学などの学者達がニューヨークを訪れる。ところが準備万端でスタートしたアジアウィークをロックダウンが直撃した。メトロポリタン美術館で予定していたオープニングセレモニーは急遽中止となり、公共施設や劇場も閉鎖、年配のコレクター達は郊外へ次々と移動して、わずかな期間にマンハッタンの表情は一転した。休業要請以外の店舗も自主的に閉じ、マーケットでは顧客に食品などの商品を触らせないなどの徹底ぶりであった。しかし、なぜかマスクをつけている人がほとんどいない。私は一人だけ着用する勇氣もなく外出を避けていたのだが、現地で医者として働く知人のアドバイスに従い、予定を早めて帰国することにした。

ウイルスという見えない敵と十三時間の飛行を共にするかも知れない。とりあえずマスク以外にも消毒用ウェットティッシュ、ビニールの手袋などの思いつくものを持って搭乗した。機内はいつもよりも緊張した雰囲気だった。客の中には自分の座席の周辺を念入りに消毒する人、白い防護服に身を包んだ人もいた。私がバッグからあるものを取り出そうとすると、通路を挟ん

だ隣のインド系の男性がこちらを見て「僕も同じことを考えた」と水泳用のゴーグルを見せて笑った。²

コロナ禍では主にソーシャルディスタンス（社会的距離）の言葉が使われてきたが、人と人との物理的な距離という意味ではフィジカルディスタンス（物理的距離）が正しいらしい。日常で人との距離を測る上で二つは互いに関係しており、単なる「ディスタンス」でよいという意見もある。日本語で言えば「距離を保つ」の言葉であらわされるが、一口に距離と言っても心地よく安全を保つことは簡単なようで単純ではない。

様々な国の人たちが集まる地域では、他人との距離を保つことに、おのずと敏感になる。コロナ禍に限らずニューヨークでは電車の中で隣の席が空いていても、自分がその空間を埋めることでお互いが触れ合うとか窮屈になるようであれば、

ア 立っているのが暗黙のマナーなのだ。アメリカ人がマスクを好まないのは、既に伝染病を持っている人が使う物という意識もあるが、顔半分が遮られること³によって気持ちを読む、相手との距離を測ることが困難になるのも、マスクを避ける理由のひとつと思われる。彼らにとって表情や言葉はソーシャルディスタンスを埋める緩衝材なのである。

日本では都心や行楽地、イベント、空港やチケット売り場等、様々な日常の場面で並んで待つことが多い。列が進んで自分が動くと同時に、後ろの人の体が隙間なくついてくる。並ぶ時間よりも、**イ** 異常に接近した人との距離にストレスを感じることはないだろうか。体が触れることに寛容なのか、それとも諦めているのだろうか。そういう私もひたすら黙って我慢している。

先日アメリカの社会批評・評論家のフラン・レボウィッツが雑誌『ニューヨーカー』のインタビューで、実は日常に頻繁に行われているハグが苦手で、それとなく避けるのは大変なのだと言っていた。本来は親密な友人や家族間の愛情表現のためのハグなのに、気がつくとも相手かまわずに抱きつく習慣が伝染してしまったと、ユーモアを交えて語っていた。ハグの習慣のない日本人であれば、相手も仕方がないと理解してくれそうだが、有名人で社交の場に出向くことが多いアメリカ人が、ハグを避けて生活するのは苦勞であろうと想像する。

文化人類学者エドワード・ホールの著書『かくれた次元』の〈人間における距離〉の章では、リサーチを基にした人と人と

の距離を、密接、個体、社会、公衆の四つに分類している。そこには各分類の具体的な距離と人間の行動や感じ方、お互いの見え方や起こりうる感情などが説明されている。この著書によれば、先に述べた混んだ列に並ぶことやハグは六―九インチ（約十五―二十三センチ）の密接距離にあてはまり、本来は愛撫あいぶ、格闘、慰め、保護のための距離で、通常の生活で公の場を用いられるのは適当ではないらしい。たとえば電車などの公共的な場所で他人との間に密接距離を強いられた場合は、

X

、声もささやくように小さくなるのが自然だ。逆にこのような状況で身体的接触を楽しむ行動や大きな声は、あらぬ疑いやトラブルに発展する可能性がある。距離は人の心に与える影響もあり、具体的に距離の特質をわきまえることは建築や会場設営などの空間を考えるうえでも重要である。

日本では人と人との距離による効果を、日常・非日常の空間に巧みに取り入れることで独特な文化を育んできた。例えば小間まと呼ばれる四畳半以内の茶室。

ウ

利休が作ったとされる京都の待庵たいあんなどは、わずか二畳のとても狭い空間である。先の分類に当てはめると、個体距離一・五―二・五フィート（約四十五―七十六センチ）にあたり、家族間や仲の良い友達同士にふさわしい距離とされている。小間の茶室は、本来一客一亭を想定しており、

エ

二客までが心地よさの限界である。茶室に招かれる客と亭主の関係性によっては微妙に狭いようにも思える。なぜ茶室を極端に小さく作る必要があるのかと疑問に感じるが、座った際の五感の働きを加味すると小間の茶室の魅力が見えてくる。茶釜の位置、亭主と客の座る場所はあらかじめ定まっている。相手の上半身が認識できて、顔の表情が強調されるが、密接距離のようにゆがんで見えるような圧迫はない。床の間は視線の置きどころとなり、飾る花や書画などによっては小さな空間から大きな世界を想像することができる。このような視覚的效果に加え、四方の壁が迫ることで遮断された空間であることを肌で感じる。時には外から鳥の鳴き声や葉擦れの音が聞こえるかもしれない。しかし壁の外の世界は耳や気配で感じることができ、目には見えない。茶を味わいながら研ぎ澄まされた五感4は体の中で一つになっていく。茶室でのくつろぎは日常を逸脱したものであり、いわゆるリラククスとは違う。今、この時にお互いの存在を感じ、共に生きている喜びを実感することなのだ。

以前、アメリカ人の知人と会食した際に、彼がベトナム戦争へ出征した時の話になった。戦地での滞在が長くなり精神も肉

体も行き詰まってきた頃、隊から数日間の休暇と近隣の国への旅行の許可が下りた。このことは休暇後の厳しい任務が待ち受けていることを意味していた。この旅行で初めて日本の温泉を訪れた時の事を、彼は年老いた今でも鮮明に覚えていた。洋服を脱いで湯船に入ろうとした時、浸かっていた老人が体を洗ってから入るのだと、わざわざ湯船から出て桶おけを使いながら洗って見せてくれた。その後老人は静かに元に戻り、誰とも目を合わさずに窓の外を眺めていた。他の三人の日本人も狭い空間にお互いが向き合わないように、視線を合さずバランスよく距離を保って入っている。彼が体を洗い終わったころ、見はからつたように一人が湯船から出て場所を譲ってくれた。

当時、第二次世界大戦終戦からわずか二十数年後である。かつて敵だった国の人たちと、狭い湯船の中で共に安らぎを味わっている。先週末までのベトナムと同じ地球上にいるとは思えないくらいに、違う次元に迷い込んだかのようなだった。彼は戦地での緊張とのギャップと相まってか、涙が溢れ出るとまらなくなったという。

この侘わび寂さびた温泉宿での美しいひと時が、彼の人生に大きな転機を与えた。無事に自国へ帰還した彼は、それまで全く縁がなかった日本美術を学ぶために大学へ通った。卒業後はアメリカの大学で日本美術を教える他、美術館のキュレーターとして勤務し、頻繁に日本を訪れては様々な文化に触れるようになった。「茶室と温泉には素晴らしい日本的距離感がある。世界が茶室や温泉のようであれば平和なのだ」と彼は言う。

たしかに茶室や温泉は清浄な環境と節度ある距離を保つという意味で、平穏な世を象徴している。小間の茶室の躡り口と呼ばれる小さな入り口は、腰を曲げないと潜くぐって入ることができない。それはあえて刀を持ち込めない寸法に設計されているからで、憂世うきよを離れ、敵味方であっても武器を捨て茶室の中では平等に茶を

A

。香で空気を清め、新品の木地桶に入れた水を用いて茶を

B

。

温泉でも水の清浄には気を遣う。お湯を汚さぬようにあらかじめ身を清め、お互いのプライバシーを保つ距離を計らいつつ、波をたてずにそっと入る。

平和な距離とは、些細ささいな日常の動作や文化に育まれ人間の体や心に宿りながら、おのずと広がっていくのが理想ではないだ

ろうか。距離は人と人のみならず国と国や、経済、政治、文化、環境などの、様々なことに影響を及ぼす。コロナ禍・コロナ後においても、⁶距離を隔たりとしない世の中であることを願う。

(桐谷美香「平穏を生む距離」による)

注 利休——千利休(一五二二〜一五九一年)。安土桃山時代の茶人で、茶の湯の大成者。

待庵——京都府大山崎町にある、千利休が作ったとされる茶室。国宝。

一客一亭——一人の客と亭主だけの茶事。亭主とは、茶の湯で茶事を主催する人のこと。

キュレーター——博物館・美術館などの企画展示をつかさどる専門員。キュレーター。

問一 文中の二重傍線部 (a・b) のカタカナを漢字に直したとき、同じ漢字を用いるものを、次のそれぞれの選択肢の中から選べ。

a サイ事

18

- ① サイ眠術にかかる
- ② 書サイのある住宅
- ③ 神社でサイ礼を執り行う
- ④ サイ時記で季語を調べる
- ⑤ 対立する両者の仲サイに入る

b 万タン

19

- ① タン練を積んだ身のこなし
- ② 大タンな筆致で描く作家
- ③ 事の発タンを思い起こす
- ④ タン念に仕上げられた作品
- ⑤ 見事なプレーに感タンの声が上がる

問二 文中の波線部 i (対岸の火事)、ii (見はからった) のここでの意味として最も適当なものを、次のそれぞれの選択肢の中から選べ。

i 20

- ① 自分自身に災いが降りかかって、はじめて他者の痛みを感じられるようになること。
- ② 大した出来事ではないのに、誇張されたりうそが混ざったりすることで大事になること。
- ③ 他人には重大な事であっても自分には関係がないこととして、何の痛みも恐れも感じないこと。
- ④ 重大な出来事をあたかも軽微な事のように受け取ること、事態を深刻化させること。
- ⑤ 他人の災難や不幸を見聞きすることで、自分の中に喜びや快さの感情を覚えること。

ii 21

- ① よりよい結果を求めて選び抜いたこと
- ② 状況を見て適当な時を判断したこと
- ③ その場にいる人々の行動に従ったこと
- ④ あらかじめ結果を見通しておいたこと
- ⑤ おそらくこうだろうと推測したこと

問三 文中の空欄（ア～エ）を補うのに最も適当なものを、それぞれ次の選択肢の中から選べ。ただし、同じものを繰り返し

選んではならない。ア **22**、イ **23**、ウ **24**、エ **25**

- ① あえて
- ② たとえ
- ③ もしや
- ④ せめて
- ⑤ むしろ
- ⑥ 中でも
- ⑦ はなはだ
- ⑧ それとも

問四 文中の空欄（A・B）を補うのに最も適当な組み合わせを、次の選択肢の中から選べ。

26

- ① A 絆ほだす | B 煎いじる
- ② A 奉ほうずる | B 焙ほうじる
- ③ A 喫くする | B 点たてる
- ④ A 炊かぐ | B 被かず
- ⑤ A 嗜たしなむ | B 歆そぼだてる

問五 文中の傍線部1（マンハッタンの表情は一転した）には「擬人法」という修辞法が使われている。同じ「擬人法」を用

いた表現として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。 **27**

- ① 夜空に星々がきらめく
- ② 夏の海が私たちを招く
- ③ 歩くと床がみしみしと鳴る
- ④ 好んでモーツァルトを聴く
- ⑤ 雪をかき分けて山の頂に立つ

問六 文中の傍線部2（水泳用のゴーグルを見せて笑った）とあるが、この男性のふるまいはどのように説明できるか。最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

28

- ① コロナウイルスが病気の原因なのかどうかも分からないまま、狭い機内に閉じ込められて帰国をさせられる者として、どうにかその鬱憤を晴らそうと、筆者を相手にゴーグルを身につけるといふ滑稽なふるまいをしてみせたということ。
- ② コロナウイルスという新たな伝染病に対して機内の人々がそれぞれに対処法を試みる中で、ゴーグルを装着するという最大の備えをした姿を同じ備えをする筆者に見せながら、互いの安全・安心を確認し合ったということ。
- ③ 目に見えない伝染病に対して皆が緊張している空気の中で、隣の席に長い時間座ることになる筆者とまったく同じしぐさをする事により、少しでも筆者をなごませ、ともに困難に立ち向かう者同士の絆きずなを示そうとしたということ。
- ④ 未知の伝染病の蔓延まんえんであまりに気づまりな機内の雰囲気に対してほとほと嫌気が差し、なかば破れかぶれのゴーグル装着という場違いな行動をとってしまったことによる羞恥心を、ほほえみかけてごまかそうとしたということ。
- ⑤ 得体の知れない伝染病に皆が神経をとがらせている中で、どのような対応が適切なのか分からないままに、ゴーグルを身につけるなど思いつく限りの対策をとるしかない者同士、困惑を共有しているという連帯感を示したということ。

問七 文中の傍線部3（表情や言葉はソーシャルディスタンスを埋める緩衝材なのである）とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

29

① マスクをすると空間的に近くにおいても表情や言葉がうまく伝わらず、相手の反応もよく分からないので、マスクを外してコミュニケーションの妨げとならないようにしているということ。

② 未知のウイルスにも有効とされるマスクをはずしてまで、表情や言葉によってコミュニケーションをすることが、相手に対する最良のマナーであると考えられているということ。

③ ふだん明確な顔の表情や言語表現によって意思疎通をはかるアメリカ人も、いったんマスクをすると、顔が見えなくなる分だけ表情や言葉の強さが和らぐことになるということ。

④ 顔の表情や言語表現は気持ちを伝えたり読み取ったりするのに不可欠であり、それを妨げないためにも、適切な社会的距離は保たれるよう常に注意を払う必要があるということ。

⑤ 表情や言葉があれば、それによって相手の気持ちをくみ取ることができるので、心理的に望ましい距離を保ち、人との関係がうまく維持されるようになるということ。

問八 文中の空欄（X）を補うのに最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

30

① 手足が多少触れ合っても何とも思わないのが正常で

② あえて視線をぶつけて相手を不愉快にさせるのが当たり前で

③ 何らかの筋肉の緊張や精神的にも不快を感じるのが正常で

④ 表情や身振りによって相手とコミュニケーションを図るのが普通で

⑤ 身体的接触によって精神的にもダメージを受けるのが当たり前で

問九 文中の傍線部4〈茶室でのくつろぎは日常を逸脱したものであり、いわゆるリラックスとは違う〉とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

31

① 茶室でのくつろぎは、極端に狭く閉ざされた空間で茶に集中し、茶そのものを味わうことから生まれる研ぎ澄まされた感覚を伴うものであり、広くゆったりした空間で好きな飲み物を好きなだけ飲むような、解放的な気分を満喫するものとは全く質の異なるものであるということ。

② 亭主と客が互いの視線やふるまいを意識しながら究極のコミュニケーションをはかる茶室でのくつろぎは、別個の存在でありつつ同時に一体感を覚えるところから生じるものであり、自宅の部屋で一人のんびりするようなりリラックスとは異なる種類のものであるということ。

③ 豊かな緑に囲まれた茶室でのくつろぎは、狭い空間にありながら、亭主がしつらえた花入れの花や室外から漏れ聞こえる鳥の声、葉擦れの音など自然によってもたらされるものであり、マンションの一室など人工的な環境での心身の弛し緩かんとは全く異なるものであるということ。

④ 壁が四方を遮断する茶室という狭小の空間における、亭主と客との一対一でのくつろぎは、目に見えない互いの精神的で霊的な交流から生まれてくるものであり、ふんだんな視覚的・聴覚的情報で癒やされるような、世俗的なリラックスとは次元の異なるものであるということ。

⑤ 茶室でのくつろぎは、あえて狭い空間に身を置いて亭主と客が互いに居住まいを正し、視覚・聴覚・味覚などを鋭敏にして、広い世界にあって今この時を相手と共にする喜びを感得するものであり、自宅などで心身の緊張を緩めるリラックスとは大いに異なるということ。

問十 文中の傍線部5〈涙が溢れ出てとまらなくなった〉とあるが、なぜそのようなになったのか。その理由として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

32

① 戦争のさなかのわずかな休暇で訪れた日本の温泉で、入浴のマナーを教えてくれるような日本人の優しい心遣いや態度に触れたことにより、自分の家族や友人たちとかつて過ごしたアメリカでの豊かで恵まれた生活を思い出し、強く郷愁を覚えたから。

② 戦闘の最中に許された数日間の休暇に訪れた日本で、温泉の穏やかさと人びとの温かみに触れ、二十数年前には日本と戦い、また今日ベトナムで戦いを繰り返す世の中のとおり、それに関わらざるを得ない自分の運命に、この上ない悲しみを覚えたから。

③ ベトナム戦争のわずかな合間に許可が下りて訪れた日本の温泉場では、人びとが穏やかであって心も安らぎ、昨日まで経験した、そして再度向かうことになる戦地とは全くの別世界に思われて、愛すべきこの地を離れたくないという強い思いでいっぱいになったから。

④ 戦地では敵と向き合うという極限的な緊張状態にあるのに対して、日本の温泉では狭い湯船の中、かつての敵国の人たちともお互いの間合いを計って快適に湯につかることができ、その絶妙な距離感の中で深い安らぎを感じて、こわばっていた心が解きほぐされたから。

⑤ ベトナムに出征しているただなかのわずかな休暇を利用して訪れた、日本の温泉場の心にしみる安らぎと、日本人の気遣いや心穏やかなありように、ふたたびかの地で苛酷な戦闘に加わることになる自らの明日を思って、何とも言えぬやりきれない気持ちになったから。

問十一 文中の傍線部6〔距離を隔たりとしない世の中〕とは、どのような「世の中」か。最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

33

- ① 人間同士であっても国家間であっても、取るべき適切な距離というものがあり、それを越えて関わり合うことをよしとしないような世の中。
- ② 人であっても国であっても、互いの中にある物理的な距離を克服して心理的な距離を縮めていき、人々が融合していくことを理想とする世の中。
- ③ 二人の人間や二つの国家の間に、茶室や温泉におけるような緊張感と節度のあるくつろぎがあつて、互いに干渉し合わないような世の中。
- ④ 人と人や国と国の中にある距離が、お互いに配慮し節度を保つ中で自然と生じ、平穏で心地よい関係となるような世の中。
- ⑤ 他者や他国との間にあるべきふさわしい距離を一方的に決めつけるのではなく、互いに交流しながら間合いを計ることを望ましいと考える世の中。